

I. 運営委員会報告

以下の日程でメール審議を実施した。

1. [R07-001: 採決] 役員の交代に伴う本会所有の銀行口座の名義変更手続きを行うにあたり、会員規則の改定について臨時総会を開催し（別掲1）、承認された（審議期間 2025年6月30日から7月9日）。
2. [R07-002: 採決] 2025年度植生学会各賞受賞者の決定について審議し、承認された（審議期間 2025年8月23日から9月1日）。
3. [R07-003: 意見聴取] 植生情報のオンライン化について、会員の意見を聴取した（審議期間 2025年9月1日から9月10日）。

2025年5月28日に運営委員会（オンライン会議）を開催した。審議事項は以下の通り。

1. 2024年度収支決算（別掲2, 3）について審議し、承認された。
2. Editorial Manager の導入とその支出の検討を進める可否を審議し、承認された。
3. 植生情報のオンライン化の検討を進める可否を審議し、承認された。
4. 30周年記念シンポジウムの開催について審議し、承認された。
5. 2025年度収支予算（亀井基金の予算執行計画の見直しを含む）について審議し、承認された（別掲4, 5）。

2025年9月27日に運営委員会（オンライン会議）を開催した。審議事項は以下の通り。

1. 植生情報のオンライン（PDF）化について審議し、承認された。
2. EBSCO の収録依頼について審議し、承認された。
3. 英文原稿の規定改定について審議し、承認された。

II. 編集委員会報告

2025年度前半期、編集委員会メーリングリスト

等で、以下の事項を審議した。審議事項等は以下の通りである。

1. 前年度編集委員会より 2025 年度委員会に引き継ぎを行った。
2. メール審議により 2025 年度論文賞の受賞候補論文 1 件を選定し、表彰委員会に報告した。
3. 植生学会誌の投稿・編集に Editorial Manager の導入を決め、事務局に報告、運営委員会に諮っていただくこととなった。
4. 植生学会誌の DOAJ への登録を目指し、投稿規定などの変更を行うことを了承し、事務局へ報告した。
5. 植生情報のオンライン化に関するアンケート結果の検討を行い、オンライン（PDF）配信に移行することを決定し、事務局に報告した。
6. 植生情報の PDF 配信に伴い、記事（論文）が JSTAGE 上で読めるようにするために、情報誌への投稿呼びかけの文言を改定し、編集担当のチェックが入ることを明記することを決め、事務局へ報告した。
7. 2025 年度発行の 42 卷 2 号に掲載される論文（短報を含む）は 5 本を予定し、来年度 43 卷 1 号に掲載される予定の論文 3 本を受理した（2025 年 10 月 29 日現在）。

III. 企画委員会報告

2025年4月15日（火）に企画委員会（オンライン会議）を開催した。報告事項および審議事項は以下の通り。

1. 企画委員会の2025年度予算案について審議した。
2. シンポジウムを公募制とし、会員の希望で大会中やその他の時期のシンポジウムを企画できる体制を整えた。2025年度は1件の応募があり植生学会第30回大会（鹿児島）でシン

ポジウムを開催した（企画者：設楽拓人「最新研究で紐解く日本の第四紀の植生変遷」2025年10月10日）。

3. オンラインミニシンポジウムを企画した。2025年度は12月13日に実施することとなった（企画者：吉田圭一郎「近接リモートセンシングによる植生研究」）。
4. 新しい植生学会若手研究者研究助成制度として、学生会員に対し植生学会大会発表の補助を行うことを決定した。植生学会第30回大会（鹿児島）では13名に対して助成を行った（応募者14名、1名キャンセル）。
5. 植生学会書籍の趣旨と構成について意見交換をした。
6. 2025年10月13日に鹿児島大学農学部附属高隈演習林においてトレーニングスクール（野外調査編）を開催した。講師は中村幸人氏に依頼した。参加者は22名（うちスタッフ3名）であった。

IV. 表彰委員会報告

2025年5月12日に表彰委員会（オンライン会議）を開催した。報告事項および審議事項は以下の通り。

1. 4賞（学会賞、奨励賞、功労賞、特別賞）および研究発表賞（口頭発表、ポスター発表）の公募・選考・授与にかかるスケジュールについて検討し、2024年度に準じて進めることとした。
2. 表彰委員会の2024年度決算と2025年度予算案について審議し、承認された。

2025年8月18日に表彰委員会（オンライン会議）を開催した。報告事項および審議事項は以下の通り。

1. 学会賞2名および論文賞1編の受賞候補者について審議し、承認された。
2. 第30回大会における研究発表賞の選考、各賞の授与式の運営、研究発表プログラムの作成などの進め方について検討した。

3. 各賞候補者の推薦を得るための方策について検討した。

第30回大会の運営に関して下記のことを実施した。

1. 研究発表プログラムを作成した。
2. 大会当日に研究発表賞2名（口頭発表1名、ポスター発表1名）の選考、各賞の授与式の運営、学会賞受賞者の記念講演会の運営を行った。

V. 群集属性検討委員会報告

オンライン会議・メール審議を含め、群集属性検討委員会としての具体的な会議は実施できていないが、活動状況は以下のとおりである。

1. 2025年5月20日に植生学会HPの「群集属性」にこれまでに整理された2つの群集属性マトリクスをアップロードした。
2. 今後の活動方針はHPにアップロードした2つのマトリクスについて、それらを合わせた植生体系を中心とした、一般の方々にもわかりやすくものに更新する予定である。環境省植生図の凡例検討との連携も継続したい。
3. 群集属性検討は、年度区切りではなく継続的な活動となるので、ある程度独立性をもって活動させていただきたいと考えている。

VI. 大会支援委員会報告

大会支援委員会を随時開催した。報告事項は以下の通り。

1. 企画シンポジウムおよびトレーニングスクールは、それぞれ2025年10月10日と13日に実施することを確認した。
2. 一般講演・総会・表彰式は2025年10月11日に鹿児島大学において実施することを確認した。
3. フィールド研修は、2025年10月12日と13日に肝属山地と高隈山地（鹿児島大学高隈演習

林)で開催することを確認した。

4. フィールド研修と合わせてトレーニングスクールを高隈演習林で実施することを確認した。
5. 植生学会 30 周年記念シンポジウムを大会中に開催することを確認した。
6. 大会参加費およびフィールド研修参加費について検討した。
7. 開催経費の納入方法と期限について検討した。
8. 大会実行委員会および大会支援委員会の体制および業務分担について確認した。
9. 植生情報への掲載記事について検討した。
10. 2025 年 6 月 18 日に第 30 回大会参加申し込みおよび一般講演、フィールド研修、トレーニングスクールの受付を開始した。
11. 2025 年 10 月 12 日から 13 日に桜島、肝属山地、高隈山地(鹿児島大学農学部附属高隈演習林)においてフィールド研修を開催した。参加者は 42 名(うち現地スタッフ 3 名)であった。

VII. 2025 年度総会報告

2025 年 10 月 11 日に 2025 年度総会が開催され、以下の事項が報告された。

2. 学会事務局報告

2025 年 5 月 9 日現在の会員数(正会員 428 名、団体会員 10 団体、賛助会員 1 団体)が報告された。

3. 各種委員会報告

上記 I~IV の運営委員会、各種委員会の審議事項が報告された。

4. その他

第 31 回大会の運営代表者として信州大学の大窪久美子氏および長野県環境保全研究所の尾関雅章氏より大会について開催する準備を進めることができた。またフィールド研修について戸隠高原周辺(予定)で開催する準備を進めることができた。

VIII. 学会賞

2025 年度の学会各賞の受賞者は以下の通り。授与式は 2025 年 10 月 11 日に第 30 回大会で行われ、前迫会長より各受賞者に表彰状と記念品が贈呈された。

学会賞	鈴木伸一(地球環境戦略研究機関 国際生態学センター)、比嘉基紀(高知大学)
奨励賞	受賞者なし
功労賞	受賞者なし
特別賞	受賞者なし
論文賞	後藤田真衣、瀬戸美文、比嘉基紀、石川慎吾、ネザサ型草地の管理放棄により減少する草原生植物の生態的特性(植生学会誌第 41 卷 2 号 37-50 頁掲載、2024 年 12 月発行)
研究発表賞	
口頭発表賞	澤井 貴之(信州大学大学院総合理工学研究科)・東城 幸治(信州大学理学部)火山地域における植物の個体群分布とその維持機構
ポスター発表賞	服部 希実・澤田 佳宏(兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科) 畦畔の野草の飼料利用を再開するための課題と方策

IX. 植生学会第 30 回大会報告

植生学会第 30 回大会(実行委員長: 川西基博)が、2025 年 10 月 10 日から 10 月 13 日に鹿児島大学で開催された。一般講演では口頭 24 題ポスター 26 題の発表申し込みがあった。大会参加申し込み数は 101 名であった。

10 月 10 日	シンポジウム(鹿児島大学・オンライン配信)
10 月 11 日	一般講演、学会賞各賞授与式、総会、三十周年記念シンポジウム、懇親会(鹿児島大

学・シンポジウムは鹿児島大学
学・オンライン配信)

10月 12・13日 フィールド研修（肝属山地・
鹿児島大学高隈演習林）

シンポジウム（企画：設樂拓人）「最新の植生
史研究から学ぶ日本列島の植生変遷」を開催した。
演題および演者は以下の通りであった。

第四紀の氷期・間氷期の環境変化と日本の植生
地理変遷 百原 新（千葉大学大学院）

最終氷期最盛期以降の東日本における森林限
界高度の復元:花粉化石と種分布モデルによる地
理的考察 吉田明弘（鹿児島大学・法文）

比較系統地理解析で探る多雪植物群集の分布
変遷と地域分化 阪口翔太（京都大学・人環）

隔離分布するヤエガワカンバ林の植生地理的
特性とその形成史：植物社会学・種分布モデル・
分子系統地理学による統合考察 設樂拓人（森林
総合研究所・多摩森林科学園）

三十周年記念シンポジウム「植生学会で展開さ
れてきた研究変遷と未来への視座」（企画：大会実
行委員会）を開催した。演題および演者は以下の
通りであった。

開会挨拶 前迫ゆり（植生学会長）

植生学会設立への想い 福嶋 司（東京農工大
名誉教授、前会長）

群集属性検討委員会を立ち上げた背景 石川
慎吾（高知大名誉教授、前会長）

植生学を引継ぎ、発展させるにはどうするべき
か 上條隆志（筑波大、前会長）

一般講演の申し込みは以下のとおりであった。

<口頭発表>

<口頭発表>

A01 燃料革命から 50 年経過した今、種多様性の
豊かな里山林は残っているか？—静岡県の
夏緑二次林・アカマツ林の事例— 増田敦
人・浅見佳世（常葉大学大学院）

A02 落葉二次林での光環境の違いが落葉低木 3

種の開花結実量に及ぼす影響 森本ななみ
(東京農工大学大学院農学府)・吉川正人
(東京農工大学大学院農学研究院)

A03 火山地域における植物の個体群分布とその
維持機構 澤井貴之（信大・院・総合理工）・
東城幸治（信大・理）

A04 植生帶境界域における標高に沿った樹木の
空間分布と種間関係 吉田光翔（都立大・
院）・吉田圭一郎（都立大）・武生雅明（東京
農大）・磯谷達宏（国土館大）

A05 第三紀遺存樹種ヤマグルマの遺伝構造から
みる日本・台湾の森林形成過程 向井智朗・
相原隆貴・上條隆志・津村義彦（筑波大・生
命環境）・Chieh-Ting Wang・Chiou-Pin Chen・
Chin-Hsin Cheng (National Taiwan
University)・陶山佳久（東北大・農）

A06 日本のチョウセンミネバリ *Betula costata* と
大陸個体の系統関係と遺伝情報から推定さ
れるその遺存プロセス 相原隆貴（筑波大・
生命環境）・設樂拓人（森林総研・多摩）・内
山憲太郎（森林総研・樹木遺伝）・Nian Wang
(Shandong Agricultural Univ.)・津村義彦（筑
波大・生命環境）

A07 赤石山地北部の約 1100 年前の岩屑なだれ地
に形成された森林の組成と構造 高岡貞
夫・苅谷愛彦（専修大・文）

A08 伊平屋島の植生とウバメガシ群落の成立立
地 古川知代（株式会社プレック研究所）・
寺田仁志

A09 圃場整備が棚田畦畔の植生と土壤に及ぼす
影響 畑田菜緒（アジア航測（株））・澤田佳
宏（兵庫県立大／淡路景観園芸学校）

A10 兵庫県東部における過去のオミナエシ生育
地でのオミナエシの消失 西脇亜也

A11 異なる生育地から採取したハナハタザオの
開花条件の比較 川田清和（筑波大学生命
環境系）・鈴木葵（筑波大学生物資源学類）

A12 自然共生サイトにおける植生の傾向 環

境省 九州地方環境事務所 小林悟志

- B01 つくば市におけるシロバナナガバノイシモチソウなどの湿地性植物の移植作業とその後の生育状況 長千佳・富山陽子・鈴木獎士(株奥村組) 藤平真理子(筑波大学) 東花奈(筑波大学・生物資源学類) 上條隆志(筑波大学・生命環境系)
- B02 淡路島における湧水湿地の分布・植生・立地と人の関わり 井上知美(株式会社地域環境計画)・澤田佳宏(兵庫県立大院・緑環境景観マネジメント研究科)
- B03 水田雑草の種多様性と除草・抑草・水管理との関係－東北地方南部の水田 99 枚での事例 出島聖也(福島大・共生システム理工学研究科)・黒沢高秀・山ノ内崇志(福島大・共生システム理工学類)
- B04 特定外来植物ナガエツルノゲイトウの生態的特性－効果的な駆除に向けて－ 浅見佳世(常葉大学大学院)・大石美亜(常葉大学)
- B05 北海道東部の塩性湿地に稀産するノルゲスゲの生育環境 富士田裕子・金子和広・石川弘晃・首藤光太郎
- B06 国天然記念物「落石岬のサカイツツジ自生地」の湿原植生の現状に関する予察的報告 金子和広(北大・農学院)・富士田裕子(北大・農学研究院)・加藤ゆき恵(釧路市博)・石川弘晃(北大・農学院)・首藤光太郎(北大・総博)
- B07 多摩川河川敷における竹林の急拡大 前田海音(東京農工大・農)・吉川正人(東京農工大・農)
- B08 伊南川におけるハリエンジュの分布と繁殖特性 崎尾均(新潟大・佐渡自然共生科学センター)・上村こころ(新潟大・農)・中野陽介(只見町ブナセンター)
- B09 2025年に寄贈された植生調査資料コレクションの概要と今後の展望 橋本佳延(兵庫

県立人と自然の博物館)

- B10 既存資料を活用した府中市の維管束植物の希少性評価とレッドリスト作成 藤岡由起子(東京農工大学大学院農学府)、吉川正人(東京農工大学大学院農学研究院)
- B11 物体検出による出版物からデジタルデータへの自動変換システムの開発(web版) 松村俊和(甲南女子大学)
- B12 種組成変化推定図の考案と植生学への利活用 設樂拓人(森林総研)・津山幾太郎(森林総研)・百原新(千葉大学)・相原隆貴(筑波大学)・山下慎吾(環境省・生物多様性センター)・則行雅臣(中外テクノス)・染矢貴(アジア航測)・松井哲哉(森林総研・筑波大学)

<ポスター発表>

- P02 岡山県自然保護センターの森林植生－開所から 30 年間の変遷を考える－ 柿真理(岡山県自然保護センター・公益財団法人岡山県環境保全事業団)
- P03 UAV を用いたスギ天然林における偏形樹の空間分布 細渕有斗(都立大・院・地理)・吉田圭一郎(都立大・地理)
- P04 東アジアと東アフリカにおける常緑広葉樹林の構成種組成の上位分類階級の保存性について 目黒伸一(地球環境戦略研究機関)
- P05 八丈島において雲霧が樹木の陽葉の形質と土壤環境に与える影響 山崎悠太(都立大・院)・吉田圭一郎(都立大)
- P06 菌従属栄養植物ウエマツソウの個体群構造 池田夏生・川西基博(鹿児島大・教育)
- P07 植栽樹種の違いが人工林の下層植生に及ぼす影響－24 年生クスノキ林、イチイガシ林およびスギ林の比較－ 赤池友樹(宮崎大院・農)・伊藤哲(宮崎大・農)・山川博美(森林総研)・平田令子(宮崎大・農)
- P08 高知県の暖温帯天然林に生育するオサラン

- の共生菌相 濱戸美文（東大・院・新領域創成科学研究所・日本学術振興会特別研究員）・蘭光健人（東大・院・新領域創成科学研究所）
- P09 Integrating predictive distribution models and local knowledge in field surveys of *Castanopsis argentea* in Java, Indonesia Agung Hasan Lukman (Univ. of Tsukuba/Univ. Bengkulu), Alnus Meinata (Univ. of Tsukuba/Univ. Gadjah Mada), Firman Hadi, Karyadi Baskoro (Univ. Diponegoro), Fatchur Rohman, Indra Fardhani (Univ. Negeri Malang), Arief Hamidi (Fauna & Flora Indonesia), Takuto Shitara (Tama Forest Science Garden, FFPRI), Takashi Kamijo (Univ. of Tsukuba), Tetsuya Matsui (FFPRI/Univ. of Tsukuba)
- P10 コナラ・アベマキ二次林の地形勾配における林分構造と樹種組成の変異 黒田有寿茂（兵庫県大・自然研）
- P11 小笠原諸島母島におけるアカギ駆除後の植生動態 大川夏生・高橋智也・明田川賢生・安部哲人（日大・生物資源）
- P12 汎用マイコンを用いた乾電池駆動データロガーの開発 比嘉基紀（高知大・理工）
- P13 耕作放棄地に形成されるやぶの種組成と構造特性 菊地健太郎（宇都宮大学大学院 地域創生科学研究所）・西尾孝佳（宇都宮大学 雜草管理教育研究センター）
- P14 世界遺産登録地域（沖縄島北部）の雲霧林における温湿度のモニタリング試行 平中晴朗・新宅航平・石水秀延（いであ株式会社）
- P15 神奈川県大磯町における海浜植生の相観に対する土壤硬度の影響 小池青（都立大・院・地理）・小川滋之（東北学院大・地域総合学部）
- P16 每木調査をはじめとするフィールド再調査をどのように進めるのか 若山正隆・荒木祐二（愛媛大・院・医農、埼玉大・院・教育）
- P17 畦畔の野草の飼料利用を再開するための課題と方策 服部希実・澤田佳宏（兵庫県立大・院・緑環境景観マネジメント研究科）
- P18 植生図化のための空中写真を用いた自動植生判読の試行 則行雅臣（中外テクノス（株））、佐久間智子（中外テクノス（株））、松尾壯浩（中外テクノス（株））
- P19 中国地方の湿原植生の再検討 — 鳥取県における湿原植生の特徴 — 久保田憲・永松大（鳥取大・院・農）
- P20 簡易的かつ定量的な植生調査法の実践：多地点・多時点での統一的な広域調査を目指して 森長真一（帝京科学大・生命環境）
- P21 北八ヶ岳坪庭溶岩台地におけるハイマツ先駆個体群の球果生産特性 山下航平・井田秀行（信州大・院・総合医理工）
- P22 亜高山帯上部における針葉樹の最大樹高の標高変化 吉田圭一郎（都立大・地理）・濱侃（千葉大・園芸）・手代木功基（金沢大・学校教育）・澤田佳美（森林総研東北）
- P23 絶滅危惧種イソスマレの分布南西限地域の個体群構造 永松大（鳥取大・農）・島田千里（鳥取大・農）
- P24 くじゅう地区における湿生群落の種多様性に及ぼすニホンジカの影響 大窪久美子（信州大学農学部）
- P25 霧ヶ峰における防鹿柵内外の植生変化：Sentinel-2衛星データによる解析 尾関雅章（長野県環境保全研究所）
- P26 武蔵学園のシラカシとスダジイにおけるナラ枯れの進行と反応性の比較 秋葉祐子・白井亮久（武蔵高等学校中学校・生物科）
- P27 永久方形区による大雪山小泉岳における高山植生モニタリング 助野実樹郎（株式会社北海道技術コンサルタント）・岩花剛（アラスカ大学・北海道大学）

X. 会員移動

(2025年4月1日から2025年10月31日まで)

1. 新入会員 19名(*学生)

*山口裕志 北海道大学大学院

高比良響 神戸大学大学教育推進機構みらい

開拓人材育成センター

笠井智子 目白大学短期大学部製菓学科

*山口大成 宮崎大学農学部森林緑地環境科学科森林保護学研究室

*菊地健太郎 宇都宮大学大学院地域創生科学研究科工農総合科学専攻

*村上知基 法政大学文学部地理学科

*細渕有斗 東京都立大学

古川知代 株式会社プレック研究所

*澤井貴之 信州大学大学院総合理工学研究科

*赤池友樹 宮崎大学大学院農学研究科

*大川夏生 日本大学大学院生物資源科学研究科生物生産科学専攻

*松戸あい花 埼玉大学教育学部栽培学研究室

*服部希実 兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科

平中晴朗 いであ株式会社沖縄支社

齋藤修

*小林時嘉 兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科澤田研究室

杉本健介 アジア航測株式会社環境部環境デザイン課

森長真一 帝京科学大学生命環境学部自然環境学科

*Agung Hasan Lukman 筑波大学

2. 退会 2名(*学生)

*越智郁也, 岩下 美杜

3. 宛先不明 4名(*学生)

*平ひかり, *山下将司, *谷口みなみ, *加瀬裕亮

別掲 1.

新	旧
植生学会会員規則 <u>2025年7月8日 改定</u>	植生学会会員規則 <u>2024年10月19日 改定</u>
第1～4条 <省略>	第1～4条 <省略>
(会費)	(会費)
第4条 <u>植生学会</u> 会則第6条第3項の規定に基づき、会員の年会費を次のとおりとする。	第4条 <u>植生学会</u> 会則第6条第3項の規定に基づき、会員の年会費を次のとおりとする。
(1) 一般会員 年会費 6,000円 (2) 学生会員 年会費 3,000円 (3) 団体会員 年会費 10,000円 (4) 賛助会員 年会費 一口 10,000円	(1) 一般会員 年会費 6,000円 (2) 学生会員 年会費 3,000円 (3) 団体会員 年会費 10,000円 (4) 賛助会員 年会費 一口 10,000円
2 学生会員が一般会員となる場合は当該年度の年会費の差額の納入を免除し、その翌年度から一般会員の年会費を納入するものとする。	2 学生会員が一般会員となる場合は当該年度の年会費の差額の納入を免除し、その翌年度から一般会員の年会費を納入するものとする。
(旧姓の使用)	<新規>
第5条 会則第2条の目的を円滑に達成するため、会員が婚姻その他の事由により戸籍上の氏を改めた後も、法令等の規定に抵触することなく、また学会運営・活動上支障がない場合には、引き続き改姓前の戸籍上の氏(以下「旧姓」という)を使用することができる。	(会員情報の変更)
2 会員が希望する場合には、戸籍上の氏と旧姓を併記して使用することができる。	第5条 会員種別、所属、連絡先等に変更が生じた場合には、すみやかに所定の会員情報変更届によって変更事項を学会事務局宛に提出しなければならない。
(会員情報の変更)	<新規>
第6条 会員種別、所属、連絡先等に変更が生じた場合には、すみやかに所定の会員情報変更届によって変更事項を学会事務局宛に提出しなければならない。	(退会・除名)
2 会員が希望する場合には、会員名簿に記載の氏を戸籍上の氏あるいは旧姓に変更することができる。または戸籍上の氏と旧姓の併記も可能とする。	第6条 会員が退会しようとする場合は、所定の退会届を学会事務局宛に提出しなければならない。
(退会・除名)	2～5 <省略>
第7条 会員が退会しようとする場合は、所定の退会届を学会事務局宛に提出しなければならない。	(雜則)
2～5 <省略>	第7条 本規則の変更は総会の決議による。
(雜則)	附則 2016年10月23日 制定 1. この規定は2016年10月24日から施行する。
第8条 本規則の変更は総会の決議による。	附則 2024年10月19日 改定 1. この規定は2024年10月20日から施行する。
附則 2016年10月23日 制定 1. この規定は2016年10月24日から施行する。	<新規>
附則 2024年10月19日 改定 1. この規定は2024年10月20日から施行する。	
附則 2025年7月8日 改定 1. この規定は2025年7月9日から施行する。	

別掲 2. 植生学会 2024 年度一般会計収支決算（単位:円）

収入の部	予算	決算	差異	備考
前期繰り越し	5,826,023	5,826,023	0	
会費	2,560,000	2,284,000	-276,000	*一般 310, 学生 28, 団体 8, 賛助 1
バックナンバー売り上げ	20,000	0	-20,000	
雑収入	500,000	115,796	-384,204	
	500	(60,700)		著作権使用量分配金（学術著作権協会）
		(0)		著者負担分
		(55,096)		寄付金（第 29 回大会実行委員会）
利息	500	518	18	
計	8,906,523	8,226,337	-680,186	
支出の部	予算	決算	差異	備考
植生学会誌刊行費	1,100,000	1,114,343	-14,343	第 41 卷 1・2 号（印刷代・発送手数料・発送用台紙・送料・振込手数料）
植生情報刊行費	350,000	538,053	-188,053	第 28 号（印刷代・発送手数料・振込手数料）
学会事務局経費	600,000	413,807	186,193	学会・会計事務委託料を含む
編集委員会経費	10,000	5,322	4,678	
企画委員会経費	200,000	85,084	114,916	
表彰委員会経費	71,000	51,319	19,681	筆耕代・記念品代等
大会補助費	300,000	300,000	0	第 29 回大会
予備費	6,275,523	0	6,275,523	
計	8,906,523	2,507,928	6,398,595	
収支差額（繰り越し）	0	5,718,409		

別掲 3. 植生学会 2024 年度特別会計収支決算（単位:円）

収入の部	予算	決算	差異	備考
前期繰り越し	3,085,150	3,085,150	0	
利子	0	1,581	1,581	
計	3,085,150	3,086,731	1,581	
支出の部	予算	決算	差異	備考
国際学術発表助成事業	150,000	0	150,000	
国際植生学会派遣事業	150,000	0	150,000	
研究助成(亀井研究助成)	150,000	0	150,000	
植生情報データベース化	150,000	0	150,000	
事務局経費	10,000	0	10,000	
その他（雑費）	30,000	0	30,000	
計	640,000	0	640,000	
収支差額（繰り越し）	2,445,150	3,086,731		

別掲 4. 植生学会 2025 年度一般会計収支予算（単位:円）

収入の部	2025 年度	2024 年度	差異	備考
前期繰り越し	5,718,409	5,826,023	-107,614	
会費	2,540,000	2,560,000	-20,000	*一般 369 名（うち功労者 9 名）、学生 50 名、団体 10、賛助 1（2025 年 5 月 28 日現在）
バックナンバー売り上げ	20,000	20,000	0	
雑収入	200,000	500,000	-300,000	
利息	500	500	0	
計	8,478,909	8,906,523	-427,614	
支出の部	2025 年度	2024 年度	差異	備考
植生学会誌刊行費	1,100,000	1,100,000	0	第 42 卷 1 号・2 号
植生情報刊行費	460,000	350,000	110,000	第 29 号（印刷代・発送手数料・振込手数料）
学会事務局経費	600,000	600,000	0	
編集委員会経費	10,000	10,000	0	
企画委員会経費	200,000	200,000	0	トレーニングスクール 5 万円、シンポジウム・

表彰委員会経費				群落談話会 15 万円
大会補助費	70,000	71,000	-1,000	
予備費	300,000	300,000	0	第 30 回大会
	5,738,909	6,275,523	-536,614	
計	8,478,909	8,906,523	-427,614	

別掲 5. 植生学会 2025 年度特別会計収支予算（単位:円）

収入の部	2025 年	2024 年	差異	備考
前期繰り越し	3,086,731	3,085,150	1,581	
利息	2,000	0		
計	3,088,731	3,085,150	3,581	
支出の部	2025 年	2024 年	差異	備考
国際学術発表助成事業	150,000	150,000	0	
国際植生学会派遣事業	150,000	150,000	0	
若手研究者大会参加助成 (亀井研究助成)	200,000	150,000	50,000	亀井研究助成から若手研究者大会参加助成へ 変更
植生情報データベース化	150,000	150,000	0	
Editorial Manager 初期費用	600,000	0	600,000	
事務局経費	310,000	10,000	300,000	30 周年事業 30 万円、振込手数料等
その他（雑費）	30,000	30,000	0	
計	1,590,000	640,000	950,000	
収支差額（繰り越し）	1,498,731	2,445,150	-946,419	